令和８年度「全国学力・学習状況調査」

調査結果の概要及び特徴について

みなべ町教育委員会

１．調査の概要

（1）調査日　　令和8年4月23日（木）　※中学校の英語3技能については令和8年4月21日（火）、
英語「話すこと」については令和8年5月1日（金）に実施。

（2）調査の目的

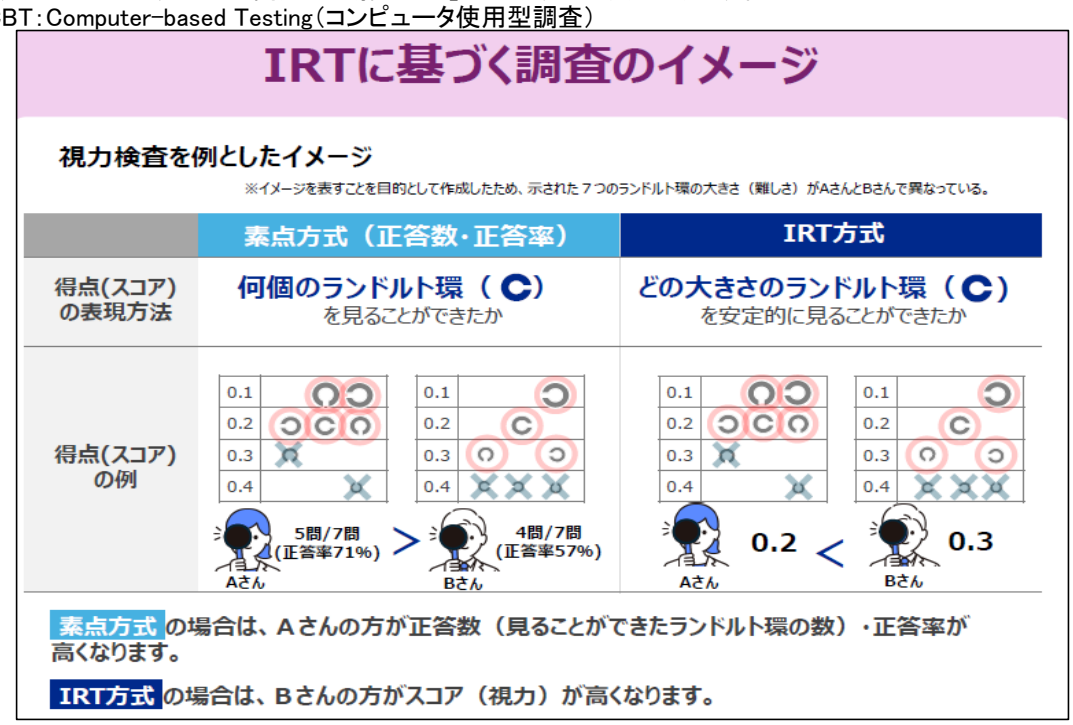
児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることや、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（3）調査内容

①　教科に関する調査　　小学校：国語、算数
中学校：国語、数学、英語

【中学校英語について】

・IRTに基づく「CBT」で実施。1 ※IRT：Item Response Theory（項目反応理論）
生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論のこと。言い換えると、テストの点数を、ただ「正答数」で判断するのではなく、「どんな問題に正解したか」で判断する方法となります。
※CBT：Computer-based Testing（コンピュータ使用型調査）



※出典：文部科学省「令和8年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」IRTを用いた結果返却について」(2026)より作成
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/26meng_irt.pdf （2026年9月10日閲覧）

②　生活習慣や学習環境等に関する質問調査

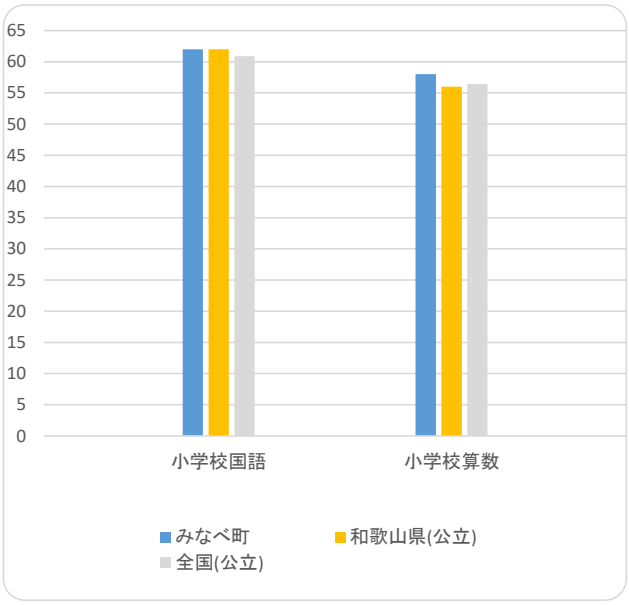
・児童生徒に対する調査
（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
・学校に対する調査
（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

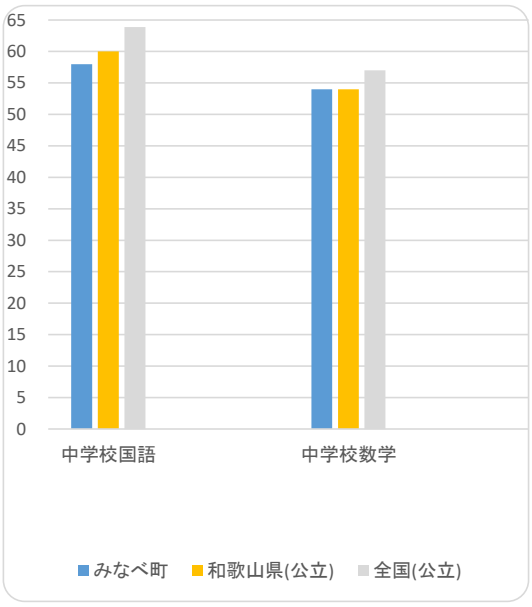
２　教科に関する調査結果について

(1)みなべ町（公立）の平均正答率と和歌山県（公立）及び全国（公立）の平均正答率との比較

【小学校国語、小学校算数、中学校国語、中学校数学】（単位：%）

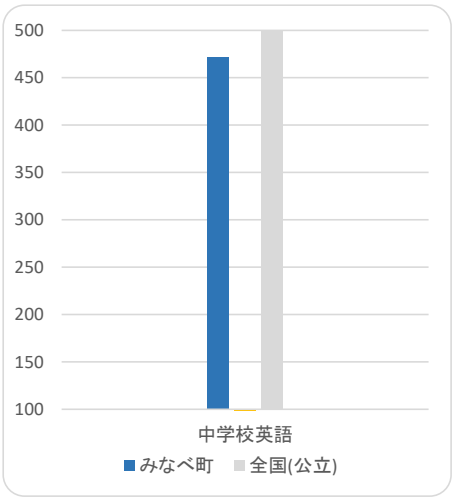
	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
みなべ町	62	58	58	54
和歌山県(公立)	62	56	60	54
全国(公立)	61	56	64	57





(2)中学校英語におけるみなべ町（公立）の平均IRTスコアと和歌山県（公立）及び全国（公立）の平均IRTスコアとの比較

	中学校英語
みなべ町	472
和歌山県(公立)	485～494
全国(公立)	499



【平均IRTスコア】

下記の問題の解答状況（正誤パターン）から学力を推定し、500を基準にした得点で表したもの。

【問題構成について】

公 開 問 題 14問 ・・・・・「聞くこと」「読むこと」「書くこと」　10問
「話すこと」　4問

非公開問題 10数問 ・・・ 幅広い内容・難易度等から出題され、
生徒ごとに異なる問題を解いている。

※「和歌山県（公立）」の平均IRTスコアは、得点幅（スコア帯）による表記としています。そのため、特定の点数を表す棒グラフの表示はありません。

３　教科の概要について　　※（　）内は、問題番号

◇ ・・・　「できている」と考えられるもの

◆ ・・・　「課題がある」と考えられるもの

【表上、記号の見方】
◎：全国平均に比べ5ポイント以上高い　　○：全国平均に比べ3～5ポイント高い　　－：全国平均との差が3ポイント未満
▽：全国平均に比べ3～5ポイント低い　　▼：全国平均に比べ5ポイント以上低い

【小学校国語】

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題がよくできていました。（2三）

◇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題がよくできていました。（3三（2））

◆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がみられました。（1二（2））

◆引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がみられました。（2四）

学習指導要領の内容別平均正答率		
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	◎
	情報の扱い方に関する事項	－
	我が国の言語文化に関する事項	
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	▽
	書くこと	－
	読むこと	－

【中学校国語】

◇表現の効果を考えて描写する問題がよくできていました。（3二）

◇文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉える問題ができていました。（4一）

◆目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することに課題がみられました。（2一）

◆段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することに課題がみられました。（3三）

◆語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がみられました。（4二）

学習指導要領の内容別平均正答率		
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	▽
	情報の扱い方に関する事項	▼
	我が国の言語文化に関する事項	
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	▼
	書くこと	▼
	読むこと	－

【小学校算数】

◇小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくる問題がよくできていました。（3（1））

◇単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉える問題がよくできていました。（3（4））

◆体積の意味について理解しているかどうかをみる問題に課題がみられました。（1（3））

◆単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断する問題に課題がみられました。（2（3））

学習指導要領の領域別平均正答率	
A　数と計算	ー
B　図形	ー
C　測定	ー
C　変化と対応	ー
D　データの活用	ー

【中学校数学】

◇具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表す問題がよくできていました。（1）

◇反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができていました。（4）

◆数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題に課題がみられました。（7（2））

◆具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだす問題に課題がみられました。（8（3））

◆累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題に課題がみられました。（9（1））

学習指導要領の領域別平均正答率	
A　数と式	ー
B　図形	▽
C　関数	▽
D　データの活用	▽

【中学校英語】 ※3技能の公開問題10問及び「話すこと」の公開問題4問において分析

◇日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができていました。（3）

◇日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができていました。（7）

◆社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことに課題がみられました。（10（1））

◆音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する問題に課題がみられました。（15（2）b）

学習指導要領の領域別平均正答率	
（１）聞くこと	▼
（２）読むこと	▽
（３）話すこと［やり取り］	▼
（４）話すこと［発表］	▼
（５）書くこと	▽

４　児童生徒質問調査に関する結果について

（全国と比べ特徴的な結果の出ている質問について紹介します。）

（1）　将来の夢や目標を持っていますか。

肯定的な回答について、小学校・中学校ともに全国を上回りました。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
あてはまる	63.5	58.6	4.9	39.7	37.4	2.3
どちらかといえばあてはまる	23.1	23.2	−0.1	33.3	30.2	3.1
計	86.6	81.8	4.8	73.0	67.6	5.4

（単位：%）

（2）　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

・「３時間以上」では、小学校で全国を下回り、中学校で全国を上回りました。
・「１時間以上、２時間未満」では、小学校・中学校ともに全国を下回りました。
・「全くしない」では、小学校・中学校ともに全国を下回りました。
・「０分（全くしない）以上、１時間未満」の累計をみると、小学校・中学校ともに全国を上回りました。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
３時間～	6.7	10.5	−3.8	9.0	8.9	0.1
２時間～３時間	15.4	11.1	4	15.4	21.2	−5.8
１時間～２時間	24.0	28.3	−4.3	24.4	31.5	−7.1
30分～１時間	41.3	29.1	12.2	26.9	19.5	7.4
～30分	8.7	14.5	−5.8	16.7	11.5	5.2
全くしない	2.9	5.7	−2.8	6.4	6.9	−0.5
全くしない～１時間（累計）	**52.9**	**49.3**	**3.6**	**50.0**	**37.9**	**12.1**

（単位：%）

（3）　土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

・「２時間」以上の割合について、小学校・中学校ともに全国を下回りました。
・「０分（全くしない）以上、１時間未満」の累計をみると、小学校・中学校ともに全国を上回りました。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
４時間～	1.9	6.3	−4.4	0.0	5.1	−5.1
３時間～４時間	1.0	3.3	−2.3	0.0	8.0	−8.0
２時間～３時間	3.8	7.5	−3.7	15.4	16.8	−1.4
１時間～２時間	20.2	21.9	−1.7	15.4	22.6	−7.2
～１時間	36.5	32.7	3.8	29.5	21.4	8.1
全くしない	14.4	16.0	−1.6	19.2	13.4	5.8
全くしない～１時間（累計）	50.9	48.7	2.2	48.7	34.8	13.9

（単位：%）

（4） 勉強は好きですか。 ※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を回答した割合

・小学校、中学校ともに、「国語」で全国を下回っています。
・小学校「算数」で全国を上回っていますが、中学校「数学」で全国を下回っています。
・小学校、中学校ともに、「英語」で全国を上回りました。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
国語	54.8	57.4	−2.6	51.3	57.2	−5.9
算数・数学	59.6	57.6	2.0	48.7	56.1	−7.4
英語	69.2	66.7	2.5	59.0	51.2	7.8

（単位：%）

（5）ICT機器に関する技能について

肯定的な回答について、④の質問においては、小学校で全国を上回っていますが、中学校では全国を下回っています。また、①、②、③の質問においては、小学校、中学校ともに全国を下回りました。

①あなたは、自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
とてもそう思う	46.2	49.5	−3.3	32.1	52.6	−20.5
そう思う	26.9	29.6	−2.7	41.0	32.2	8.8
累計	73.1	79.1	−6.0	73.1	84.8	−11.7

（単位：%）

②あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
とてもそう思う	62.5	59.4	3.1	51.3	64.2	−12.9
そう思う	21.2	25.5	−4.3	35.9	26.7	9.2
累計	83.7	84.9	−1.2	87.2	90.9	−3.7

（単位：%）

③あなたは自分のPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
とてもそう思う	27.9	32.8	−4.9	17.9	32.0	−14.1
そう思う	33.7	36.7	−3.0	38.5	37.4	1.1
累計	61.6	69.5	−7.9	56.4	69.4	−13.0

（単位：%）

④あなたは自分のPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

	小学校			中学校		
	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
とてもそう思う	50.0	44.9	5.1	42.3	46.4	−4.1
そう思う	26.0	29.7	−3.7	34.6	33.6	1.0
累計	76.0	74.6	1.4	76.9	80.0	−3.1

（単位：%）

今年度の全国学力・学習状況調査のみなべ町の学力状況は、小学校では、国語・算数ともに平均を少し上回る結果となりました。一方で、中学校におきましては全ての教科で全国を下回り、課題が残る結果となりました。今回の結果から見えてきた課題の克服に向け、町全体で一層の取り組みを進めてまいります。

しかしながら、本調査は子どもたちの一部の力を測ったに過ぎません。今回の児童生徒質問調査を見ると、「将来への夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が小・中ともに全国平均を大きく上回っており、子どもたちが未来への希望を胸に日々の生活を送っていることが強く感じられます。一方で、授業以外の学習時間（家庭学習や自主学習）の取り方や、タブレットなどのICT機器を使って情報をまとめたり活用したりする技能においては、依然として課題が見られます。

こうした結果を受け、各学校におきましては、本調査結果を分析し、小学校から中学校への学びのスムーズなつながりを大切にしながら、子どもたち一人ひとりの習熟度や興味に応じた「個別最適な学び」の充実に努めてまいります。一人一台端末を活用しながら、友だちと対話して考えを深め合ったり、自ら課題を見つけて工夫しながら解き明かしたりする主体的な学習の機会をさらに広げていきます。

これからの社会を生きていく子どもたちには、学んだことを活用する力、情報モラルや情報リテラシー、お互いの違いを認め合う豊かな人間性、そして、自らを信じて粘り強くやり抜く「非認知能力」などの多彩な力が求められています。

今後も引き続き、本町の教育目標である『「未来」を創造するたくましい子どもの育成』のもと、子どもたちが自ら生き生きと学び、自らの未来の姿を描いてたくましく成長できるよう、一人ひとりが輝く学校づくりを進めてまいります。

保護者、地域の皆様におかれましても、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。